

東北関東大震災に関する会長談話

今回の東北関東大震災では多くの方が亡くなりました。心からお悔み申し上げます。また、地震と津波により沢山の方々が家を失い、避難所で不便な生活を余儀なくされております。加えて原子力発電所の発電炉の炉心溶融により多くの方々が退避を余儀なくされております。心からお見舞い申し上げます。

日本病院薬剤師会は3月12日に災害対策本部を立ち上げ、被災地からの情報を集めつつ、私たち病院薬剤師にとって被災者に対してどのような支援が出来るか検討してきました。まだ避難場所や病院と連絡が取れないところが多く、福島第一原子力発電所の炉心溶融による高濃度放射能の拡散の重大な危機、医薬品不足、薬剤師を含む医療従事者不足、ガソリンなどの燃料不足など大きな困難は持続しておりますが、病院薬剤師としてできる限りの取り組みを行う決意です。会員各位のご協力を心からお願いいたします。

会員の皆様にはその時々のお情報を出来るだけ速やかにホームページに掲載し、共有していきたいと考えております。是非、頻りにホームページをご覧ください。

当面、以下のような活動を展開しております。

1. 正確な情報収集を行い、問題の分析を行い、会員に伝達し、行動を依頼する。特に被災地に関しての、どのような情報でも結構ですので、事務局総務課および私、柴川専務理事、安岡事務局長にご連絡ください。また、薬剤師の救援に関する活動及び活動の予定を連絡してください。休日でも必ず災害対策本部の者が受けとって対応します。特に、医療チームに薬剤師が参加した場合には、是非連絡してください。
2. 長期になることが予想される医療チームの派遣に薬剤師が入ることが重要だと考えています。すでに、送られてきたメールなどからも DMAT も含めて医療チームで薬剤師が活動していることが明

らかになっています。是非、病院から派遣される全ての医療チームに薬剤師が参加できるよう働き掛けてください。

医療チームに薬剤師を参加させるように、11の病院団体が構成される日本病院団体協議会（日病協）の邊見議長と日本病院会にも申し入れをしました。日病協では、3月18日の会議で徹底していただけることになっています。

3. ボランティアの薬剤師を募集しております。被災地の病院の薬剤師が足りなく、疲弊しています。東北大学病院眞野薬剤部長からの報告にもありますように、たとえば石巻赤十字病院では、3交代で業務を行っております。多くの入院患者であふれている上に、院外処方せんが出せないために、業務量が膨大になっています。今後、慢性疾患、風邪、インフルエンザ、感染、発熱、精神的疲労などの被災者が増大することが予想されます。被災地に到着する医薬品の仕分けやさらに医薬品を被災地へ届けることも重要です。長期的な展望で、ボランティアの薬剤師が必要ですし、援助の要望が来ております。ボランティアについては日本薬剤師会と連携して取り組みますが、日病薬として、病院薬剤部のサポートや医療チームでの活動など、病院薬剤師らしい活動をするボランティアを独自で募集しております。精神科のベテラン薬剤師も必要です。詳細は、日病薬ホームページのボランティア募集をご覧ください。

4. 義援金を募集します。日病薬として義援金を振り込む口座を開設いたしました。是非出来るだけ多額の義援金をお願いします。できれば医療機関や都道府県病院薬剤師会ごとにまとめてお振り込みいただきたいと思いますが、もちろん個人で振り込んでいただいても結構です。一定の額が集まり次第、支援をしたいと思えます。まずは4月30日を第1次の区切りにしたいと思えます。

平成23年3月18日
日本病院薬剤師会会長
堀内 龍也